

神戸堰とは

神戸堰は、山陰本線神戸川鉄橋の下流にある農業用の取水堰。大正 15 年に着工、昭和 3 年に竣工した。延長 115.8m、堰高 1.8m、6 つの多連アーチ（直径 9m）からなる堰は日本で唯一のものである。明治以前から、この場所には度重なる水不足が起こり、農民同士の争いが絶えなかった。そこで当時県議会委員でもあった高松村長の呼びかけにより、県の資金援助も得て、大規模なコンクリートアーチ堰を築くこととなった。



（以上、ホームページ：INAX ギャラリー展示：日本唯一の多連アーチ式【神戸堰】より引用）

アーチ形式の採用は、コンクリートの使用量を控え、耐久性をもたせるためだといわれる。セメントが節約された様子は、現地で玉石が浮き出たコンクリートを見ると実感できる。

堰上流に湛えられた水は、アーチ形の堰の天頂を絵取り白い飛沫となって落下し、さらに乱流となって流下する。

堰を中心として、水平面の直線とアーチ部の曲線、湛水の濃色と落下水の白色、湛水の静と落下水の動、が絶妙のコントラストをなしている。

撤去・復元

この神戸堰は、斐伊川・神戸川治水事業に伴う新堰設置により撤去される予定だったが、その希少価値により、現地で復元されることが決まった。復元案は、可動式の新堰の下流にアーチ形の堰を建設するというもので、現在、それらの工事が行われている。

私との関わり

私はこの堰の下流、そう遠くないところで生まれ育ち、空白期を経て現在もそこに住んでいる。幼時、意味も分からず、「エンテイ」と呼んでいた。漢字を覚えて以降は、形状より「円堤」だと思っていた。また、ここから取水した用水路でよく魚捕りをした。モズクガニ、オイカワ、ウナギの稚魚などがいたが、よく捕れたのはコイだった。他の川ではフナが主でコイが捕れるのはマレだったので、ずっと不思議に思っていたが、三面コンクリートの水路（隙間はあった）だったので、流速の関係でそうなったのだろうと今は思いが及ぶ。ちなみに、コイは水路傍らより水面に垂れた芝草の中に潜んでいた。近くを流れる農業用排水路（汚くなかった）を、魚を捕りつつ遡って堰周辺まで来たこともある。堰でも魚捕りをしたことはあるが、ウナギやコイなどの貴重な魚種（魚捕り少年にとって）を手にした記憶はない。少し長じて、暇がてら、遊びに来たこともある。ちょっとした異界探訪の気分があった。昭和 40 年代初頭までは、堰上流の古志橋の袂に貸しボートがあり、中学生のころは時々友人とボート乗りを楽しんだ。重い木造のボートで、オールを漕ぐコツはここで覚えた。堰まで下ったことはないが、上流の静水面を利用したことにはなるだろう。